

(第57回)

受付番号	209	学校No.	138
------	-----	-------	-----

ふりがな	にしだ いぶき	学校名	高岡市立東五位小学校
氏名	西田 伊吹	学年	2年

ふりがな	
作品の名称	どっしんまとあて

(特徴) 屋台でやった射的がおもしろくて、的あてを作ろうと思いました。こわれたとびらの金具を見て、これを使えばくり返し遊べる的あてが作れるのではないかなと思ひ、考えました。

<工夫したところ>

- ①金具にWクリップをつけ、的を自由にかえられるようにした
- ②的が倒れると自動で点数が表示されるようにしたくて、おもりとデジタルスケールを使って、そのしくみを取りつけた (どっしんの由来)
- ③できる限り簡単に的をリセットできるように、おこし板をつけた。

(使い方) ・スケール台をセットし、電源を入れ、ゼロにセットします。
 ・好きな的をクリップにはさみ、的をおこして順備します。
 ・弓矢の矢をセットし、ゴムと一緒にひっぱり、的をねらって矢を放ちます。
 ・的が倒れると、おもりが"どンドン"と台に乗り、表示された重さを得点とします。全て倒して100点です。
 ・もう一度遊ぶ時は、3カ所の板を使つて的を全ておこし、くり返します。

- ◇ 作品を作った動機や参考にしたものがあれば、下記 () の中に○印をつけて下さい。
- ① () テレビ、科学雑誌、参考図書など
 - ② () 発明くふう展、科学館、大学祭、各種のイベントから
 - ③ (○) 講師や先生、両親などからヒントをもらった
 - ④ () 発明クラブ、理科の学習、各種工作教室から
 - ⑤ () その他、自分で考えた

略図(鉛筆書きでもよい)又は写真を貼り付けて作品の特徴を説明して下さい。(※太枠内でご記入ください)

蝶番にWクリップを取りつけ、的を自由に交換できるようにしました。的はラミネート加工し、しっかりするようにしました。

後ろに、的のおこし板を取りつけ、1度で上列の的を全ておこせるようにしました。

3列別々になってしまいましたか、理想は「全ての的を遠くからでもおこせる」だったらしく、もう一歩でした。

的と弓矢を収納できるように、入れものを取りつけました。

弓矢&本体はテーマを分けて4セット作りました。

<得点になるおもり>
 キッチンにあるデジタルスケールを利用しました。おもりが並んでのるように、長い板をとりつけました。

ようちん入れを3サイズ用意し、重さを5g, 10g, 15gに合わせ、全部倒れると100g(点)になるように考えました。100均のきれいな水色の石を、少しずつ入れ、滑りりなから作りましたが、金具をつけたり糸をつけたりすると微妙に誤差が生じ、この作業にとっても苦勞していました。

◎ 的をきれいに並べると、後ろで糸がからまるので、全ての的が少しずつずれないように配置しました。

◎ 弓矢の本体は、トレットペーパーの芯で作ってみましたか、弱くてすぐこわれそうだったので、木目を作れるほどの強度のある紙管(100均)を使用しました。

- 【記載注意事項】**
1. この説明書は、審査用、展示用カードとして用いられますので必ずご記入下さい。
 2. 第一次審査は、この説明書のみでなされ、使用法など不明確な場合は、審査にもれることがあります。
 3. 従来のも(或いは方法)に比し、どこを(何を)どのようにくふうしたか、要点を判り易く図または写真でご説明下さい。
 4. 改良くふう箇所が多くある場合、要点をしぼってご記入願います。
 5. この内容説明書は出品申込書と一緒に一覧表を添えて、令和元年9月20日(金)までに事務局へ提出して下さい。